

LED 関連企業が 阿南市に研究開発施設を立地



札幌市に本社を置く株式会社レーザーシステムの研究開発施設が、阿南市那賀川町中島の市有地（中島保育所跡地・約2,030㎡）に立地されることになり、11月19日、徳島県庁において覚書の調印式が行われました。

同施設はLED部品のレーザー加工等の研究開発を行う施設で、徳島県が進めるLEDバレイ構想に見合った企業進出で、完成後は5人の新規採用が見込まれるなど、市としても大歓迎。調印式では、早期完成を願って、3者が固い握手をかわしました。同施設は平成25年1月に着工し、同年夏ごろに完成する予定です。

阿南市と吉本興業がコラボ！ お笑いの聖地で「光のまち阿南」をPR



「光のまち阿南10周年」と「吉本興業100周年」を記念した阿南市と吉本興業の共同イベント「光のまち阿南&なんばグランド花月PR大作戦」が、11月30日～12月28日までの1カ月間、お笑いの聖地「なんばグランド花月」前広場で開催されました。

オープニングセレモニーで岩浅市長は、吉本興業の関係者とともにLEDオブジェを点灯し、「小さな街ですが、大阪で大きなチャレンジをします。この機会に阿南市の名前を覚えて帰ってください。」とあいさつ。15日(土)、16日(日)には、阿南市の観光・物産展も開催されました。

版画家・吹田文明さん 母校の140周年記念に作品を寄贈



世界を舞台に活躍する版画家・吹田文明さん（阿南市富岡町出身・東京都在住）が、母校の富岡小学校創立140周年を記念して、版画作品「十字形」を寄贈しました。

吹田さんは、現在地に富岡小学校が建設されて初めての卒業生（72年前）で、当時の思い出や版画家としての歩みを振り返り、「人は皆、生まれながらにして才能という素晴らしい宝をもっています。今はまだその才能に気づいていないかもしれませんが、努力することでその宝は磨かれます。立派な大人になって、日本の未来を盛り上げてください。」とエールを送りました。

阿南市議会 正副議長が選任される



副議長（第53代）
奥田 勇氏
昭和32年4月3日生
橘根町奥山



議長（第49代）
島尾 重機氏
昭和18年1月23日生
橘町汐谷

12月5日、阿南市議会12月定例会が開会し、正副議長、各常任委員会委員、議会運営委員会委員、特別委員会委員、および組合議会の議員が選任されました。

なお、各委員会など議員構成については、2月発行予定の「議会だより」でご紹介します。

東京ヤクルトスワローズの館山選手から ユニフォームが寄贈される



現役プロ野球選手で東京ヤクルトスワローズの館山昌平（たてやましょうへい）選手（神奈川県厚木市出身・31歳・投手）から阿南市にユニフォームが寄贈されることになり、12月3日、阿南市東京事務所で寄贈式が行われました。寄贈式には岩浅市長が出席し、館山選手から「阿南市内の病院で生まれたご縁もあり、野球によるまちづくりに取り組む阿南市に少しでも力になりたい。」とユニフォームが手渡されました。

寄贈されたユニフォームは、さっそく、あすたむらんど徳島で開催していた「野球のまち阿南・野球グッズ展示会」で披露されました。

ご寄贈ありがとうございました。

高齢者による高齢者のための 介護支援ボランティア事業が始まる



高齢者が介護支援ボランティア活動を通じて地域福祉に貢献し、自らも介護予防に取り組む「介護支援ボランティア事業」が始まり、11月29日、参加者を対象にした研修会が行われました。研修会では、市の職員が制度のしくみや活動内容などを説明した後、家族介護者支援員の中川貴弘さんによる「認知症」についての講話が行われました。

受講した松原和子さん（上中町）は、「以前に婦人部活動などで施設入所者と交流する機会があり、ボランティア活動でも支援ができれば。」と話していました。ボランティア活動は、市内の9施設で12月から始まっています。

太龍寺本堂など9棟が 国の登録有形文化財指定へ



12月14日、国の文化審議会は、阿南市加茂町の四国霊場第21番札所・太龍寺の本堂を含む9棟について登録有形文化財に登録するよう文部科学省に答申しました。いずれも国の歴史的景観に寄与していると評価されました。

徳島県内で有形文化財に登録された建造物は、これで108件（39カ所）となりました。今回の答申に盛り込まれた太龍寺の建造物は次のとおりです。（カッコ内は建立年）

本堂（1852年）、大師堂（1877年）、御影堂（1878年）、護摩堂（1901年）、多宝塔（1861年）、六角経蔵（1856年）、本坊（1895年）、仁王門（1806年）、鐘楼門（1903年）

橘地域で夜間防災訓練が 実施される



橘地区自主防災組織による夜間防災訓練が、11月29日、橘地区防災公園をメイン会場にして行われ、地域住民約850人が参加しました。午後6時30分、防災無線から大津波警報が発表されたことが放送されると、懐中電灯や非常持出袋を持った住民が次々に避難を始めました。橘地区防災公園では、避難者の受付を行った後、橘地区防災婦人部による炊き出し訓練などが行われました。サッカーの練習を打ち切り、子どもたちと避難してきた橘I S少年サッカー監督の島尾晃一さん（44歳）は、避難中に気づいたことなどを子どもたちから聞き取ったりして、「防災マニュアルづくりに役立てたい。」と話していました。